

手と手と手

～子どもを支えるみんなの手～

2024年 第4号

「小さなフィードバック」と「レジリエンス」

今回は、「自尊感情」について書きました。ちょっと、振り返ってみます。

自尊感情が維持されると、「自己成就的予言的働き」がおこる。それはどうゆうことかと言うと…「人間は能力があると思えば、努力を続けられる。努力により、成績が維持されたり向上したりする。」ということ。できることにも目を向けていくことが、自尊感情を維持していくことの助けになるかもしれない。では、そのために大人ができることは何でしょうか。前回話した「自尊感情との向き合い方」という講演の中では、「**小さな肯定のフィードバックを行うこと**」と「**レジリエンスを育てること**」の重要性が出ました。

「**小さな肯定のフィードバック**」とは、「できていること」に目を向け、それを承認していくことだと思います。できていない「課題」に目が向きがちですが、よく様子を見てみると、できていることもたくさんあります。今もっている力に、子ども達自身が気付いていけるよう声をかけていくことが大切かもしれませんね。小さなことからと言うのは、特別なことでなく身近な日常の中にそれらはあるからだと思います。

二つ目の「**レジリエンス**」とは何でしょうか。「回復する力」「しなやかな心」等言われることが多いです。困難な場面に遭遇しても、強風を受け流し、自分の成長のチャンスととらえ、子ども自身が新規性追求の気持ちをもつことだと言うお話でした。困難に耐える強さを求めるのとも少し違うかもしれません。頑張りすぎて心が折れてしまうのもつらいことです。だからと言って、困難な場面に遭遇しないよう大人が常に環境を整えるのでは、子どもが自分で課題に取り組む姿勢が育まれません。つらい気持ちに共感しつつ、背中をちょっと押してあげることが、今だけでなくこれからの成長に繋がっていくのではないのでしょうか。

9月は、各学級で「**川崎市 SOS の出し方・受け止め方教育**」の授業が行われました。これは、「困ったことがある時は、相談したり助けを求めたりしていいんだよ。」という内容を学年に応じて学びました。私達教職員も、それを受け止めていけるよう努力していきたいです。

コーディネーターのひとコマ

7月19日、夏休み前最終日の下校のことです。長期休業に入るので「よい夏休みを」と声をかけていました。そうすると、近くに寄ってきて話し出す児童が何人もいました。楽しみにしている予定を話す子、これから大変なんだと少し愚痴る子、なんだかみんな「そわそわうきうき」しているようでした。いいなあと思ったのは、それを人に伝えようと思う気持ちです。

「言葉にして人に伝える」、当たり前ではありますが、それができる子供達っていいなあ、と感じました。



☆10・11月の巡回カウンセラー

10月16日(水) 10月30日(水)

11月15日(金) 11月29日(金)

巡回カウンセラー、コーディネーター面談のご希望は…

支援教育コーディネーター 柳田まで

044-288-3167